

主 題：クリスチャン

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章1-9節

パウロはこの手紙を送ったコリント教会の人たちが神に喜ばれる者となるために、まず、この教会が主の栄光を現わすものと変えられることを願っていました。愛する兄弟姉妹たちが主にあって成長し、主の栄光を現わすものと益々成長していくこと、変えられていくことを望んでいました。そこで、パウロはこの教会のクリスチャンたちに対して、「主の祝福を思い出しなさい」と、主が与えてくださった祝福を今一度彼らに思い起こさせるのです。パウロはこの大切なメッセージをコリント教会に与えるのですが、このメッセージが神からのものであるということを、1節にこのようなことばで教えています。1：1「神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、」、もちろん、これは手紙の挨拶ですが、ここを見ると、パウロは「これから私が語るメッセージはまさに神のメッセージである」ということを明らかにしています。「キリスト・イエスの使徒として召されたパウロ」と言っています。彼は確かに十二使徒のひとりではありません。しかし、パウロ自身は「私は彼らと同じように、神によって使徒として召された者であり、神の権威が与えられ、私が語るメッセージはまさに神のメッセージである。神が伝えたいとするメッセージを語ることが私の務めである。それゆに、神は私を使徒として召されたのだ。」とこの1節で教えるのです。

ですから、非常に大切なメッセージをこの後パウロはコリント教会に与えようとしています。先に話したように、コリントの教会が変えられるために、コリントの教会が成長するためにです。そのためにパウロはまずそのことをこのように記したのです。これから語るメッセージは神からのメッセージである、これが神があなたがたに伝えたいメッセージであると言うのです。確かに、そのことがパウロの働きでした。信仰を持って以来、どこに行ってもパウロは神のおことばを語り続けて来ました。神のおことばを正確に余すところなく語り続けて来ました。

そのことをパウロは私たちにも語るのですが、1節の最後に「兄弟ソステネから、」とあります。この人は恐らくパウロといっしょにいたことは明らかですが、このコリント人への手紙が記されたのはエペソの町にあってでした。そこに彼はパウロとともにいたのでしょうか。「兄弟」と記されているのでクリスチャンであったことは明らかです。ただこの人物についてはよく分かりません。聖書にはそれ程多くの説明をしていないからです。ただ一箇所だけ、同じ名前の人物が使徒の働き18：17に記されています。「そこで、みなのは、会堂管理者ソステネを捕らえ、法廷の前で打ちたたいた。ガリオは、そのようなことは少しも気にしなかった。」と、この当時、彼は信仰者ではなかったのでしょうか。もし、この箇所に記されている人物が同じ人物なら、後に彼はイエス・キリストを信じる者へと変えられています。いずれにせよ、パウロはエペソにあってこの手紙を記すときに、この一人の愛するソステネという兄弟が彼とともにいたということです。彼らから大切な神のメッセージがコリント教会へと届けられていくのです。

☆クリスチャンに与えられた10の祝福

パウロはどのようなメッセージを送ろうとしたのでしょうか？最初に言ったように、神から与えられた祝福がどんなにすばらしいものか？別の言い方をすれば、神はクリスチャンたちにすばらしい祝福を与えています。ですから、それをもう一度思い起こさせることによって、私たちクリスチャンたちはどんなに大きな祝福を神からいただいているのか？そのことを思い出すことです。

パウロの書簡だけではありません。新約聖書を見ると、私たちが繰り返し教えられていることは、どのようにすれば私たちは救いに至るのか？ということです。何を信じるなら罪の赦しを頂き救われるのか？その福音のメッセージが記されています。そして、同時に、私たちはこれまでヨハネ第一の手紙から学んで来たように、救われていることはどうすれば分かるのか？私が本当のクリスチャンであることはどうすれば分かるのか、そのことをパウロはここで私たちに「クリスチャンとはこのような祝福を神からいただいた者である」と教えるのです。そのことによって、それらを聞くひとり一人が「私は本当にこの救いに与っているのか？私は本当にクリスチャンなのか？」と自分を吟味する機会を与えられているのです。もし、あなたがクリスチャンならこの祝福はあなたに与えられたものです。そして、こういう人をクリスチャンと呼ぶのです。

長い間の思いとして私自身が感じていることのひとつですが、クリスチャンと名乗る人は世界中にいっぱいいます。問題は神が彼らをそのようにお呼びになるかどうかです。神が彼らをどのようにご覧になっているかということです。ことばではどのようにも言えます。問題は本当に救われているのかどうかということです。いったい、クリスチャンとは何でしょう？クリスチャンということばは頻繁に聞くし、多くの人が口にするけれど、みな本当にその意味が分かっているのだろうか？パウロは私たちにクリスチャンとはこういう人だと明確に教えてくれます。今から願うことは、皆さんお一人ひとりがパウロが与えてくれる定義を見て、自分の信仰をしっかりと吟味してくださることです。確かに、私はそのような者だという確信を得たなら、神に大いに感謝をささげることです。もし、自分の救いに疑問を感じるなら、主イエス・キリストの福音をしっかりと信じてこの救いに与ることです。

さて、パウロは祝福を十個挙げています。クリスチャンに与えられた10個の祝福です。そのことを今から見ていきます。

## 1. 神に属する者 2節

2節をご覧ください。「**コリントにある神の教会へ。**」とあります。「**教会**」とは非常に大切なことばです。これは二つのことばの合成語です。「～から外へ、多数の中から外へ」ということばと「呼ぶ」ということばが合成してできたのが「**教会**」ということばです。ですから、その意味は「呼び出す、呼び出された者」で、もっと言えば、「**教会とは神によって選び分けられた者たち**」です。たくさんいる中から神によって選び分けられた、それが**教会**なのです。この時点で皆さん気付かれたでしょう？**教会**とは建物を指していません。**教会**とはクリスチャンを指しているのです。神がたくさんの人々の中からある人たちを選び分けられた、その選び分けられた人たちがクリスチャンであり、そのクリスチャンを**教会**と呼んでいるのです。

神があなたを選び分けてくださった。私にはいくつか趣味があって、なかなか信じていただけないのが陶器の趣味です。もう何十年と、行くところに窯元があるとどうしても立ち寄ってしまいます。造ることはしませんが、それを見るのが大好きです。ある時、石川県に出かけたとき九谷焼に出会い、一つだけ何か買おうとして湯飲みにしました。たくさんの中からこれにしようとして決めてそれを買って帰りました。私が自分のお茶を飲むために…。パウロが使っていることばはその意味です。たくさんいる人々の中で神は特別にあなたを選び出してくださった、それがクリスチャンなのです。そのようなすばらしい特権に神はあなたを招いてくださったのです。

パウロはここでは「**神の教会**」と言っています。その**教会**ということばがもっている意味を今私たちは見て来ました。**教会**＝クリスチャンであるあなたはこのようなすばらしい祝福に与っています。これからしばらく見ていきたいのは、「**コリントにある神の教会**」ということばです。なぜ、パウロは「**コリントにある教会へ**」と言わなかったのでしょうか？なぜなら、明らかにこの手紙はコリントの**教会**に送

られているからです。しかし、パウロは敢えて「**コリントにある神の教会**」と言っています。明らかに、パウロはある意図をもってこのように「**神の**」という説明を加えるのです。なぜ、このようにしたのか？実は、「教会」ということばは一般的な集まりを表わすことばでもあったからです。人々が普通に集まっているのを「教会」と呼んでいたのです。そこで、パウロは「**神の**」と説明することによって、一般の人たちが使っている「教会」とパウロが言う「教会」とは違うということ、パウロが言う「教会」とは救いに与った者たちの集まりを指していることを明確にするのです。

パウロが敢えてこのように言うのは、恐らく、このコリント教会には教会の存在意義や目的について、余り深く考えなくなっていたからでしょう。ですから、パウロはもう一度、その大切な真理をこのクリスチャンたちに明確にしようとするのです。そして、パウロが言うことは「あなたたちは神に属する者だ」です。教会は神に属するもの、クリスチャンたちは神に属する者だと言うのです。確かに、IIコリント10：7には「**あなたがたは、うわべのことだけを見えています。もし自分はキリストに属する者だと確信している人がいるなら、その人は、自分がキリストに属しているように、私たちもまたキリストに属しているということを、もう一度、自分でよく考えなさい。**」とあり、クリスチャンのことを「キリストに属する者」と説明しています。Iコリント3：1では「**さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。**」と、「**御霊に属する人**」と言っています。私たちクリスチャンは神に属する者なのです。父なる神に、子なる神イエス・キリストに、聖霊なる神に属する者です。それがクリスチャンだと言うのです。

そのことをパウロはまずここで明らかにするのです。私たちは神の所有、私たちの所有者は神だと言うのです。思い出しませんか？Iコリント6：20に「**あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。**」とありますが、19節には「**あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。**」とあります。私たちはもう自分のものではなくって神のものとなったのです。持ち主は神なのです。ですから、「神の教会」、「神に属する者」と言われるのは当然のことです。私たちの所有者は神なのです。ですから、神が私たちに「わたしに従いなさい」と言われるのは当然です。今、レビ記を読んでいます。多くの人たちは「レビ記を読むと疲れて来る」などと余り良いコメントを聞きませんが、私はレビ記が大好きになって来ました。レビ記の中で神は繰り返して言われます。「わ

たしの命令に従いなさい。わたしは主である。」と。私たちは覚えなければいけません。創造主なる神がおられるのです。この方はすべての主権者です。すべての被造物はこの方に従います。私たちもこの方によって造られ、そして、感謝なことに、この方によって救われたのです。この方に従うためにです。

ですから、神に属する者として、当然、私たちは大きな責任を負っています。この方の言われることをやっつけていこうとします。私たちの思いではなく神の言われること、つまり、神が与えてくださった聖書のみことばに従い続けていこうとするのです。それが私たちの責任です。つい最近、何人かの牧師のメッセージを聞いていると、これはアメリカの牧師たちですが、彼らは警鐘を鳴らしています。キリスト教会と言われるところに、余りにも、間違った教えを持ち込んでいる偽教師たちが出て来ていると。聖書を使いながら、聖書のメッセージではないことを伝えている牧師たちがいるのです。そのような世の中であって私たちが覚えなければならないことは、だからこそ、私たちはよりいっそう神のおことばに立たなければいけないということです。神のおことばに、その真理に立たなければなりません。私はこの教会にあって、神のおことばを正確に伝えようとしています。聞いている皆さんも責任があります。語

られていることが本当に聖書の通りかどうかです。そうして、私たちは個人として、教会として、群れとして、神のおことばに従っていきましょうとします。それは私たちが神に属する者、神の所有物だからです。私たちの責任は造り主であり主であるこの方に対する責任です。「わたしに忠実でありなさい。私の命じることを行ないなさい。わたしは主である。」と言われるのです。

ですから、まず初めに、パウロはこのような命令をコリントのクリスチャンたちに与えます。なぜなら、パウロはこの後説明していきますが、コリントの教会は非常に世俗的な教会だったからです。最悪の教会を見たいならコリント教会を見るといいのです。大変な問題を抱えた集まりでした。

最初に私たちが何をするのか、パウロは「神の祝福をしっかりと覚えるとともに、私たち自身の責任もしっかり覚えること、それは神のおことばに従うという責任である。」と、そのことを強調するのです。

## 2. 神によって聖められた者 2節

パウロは「**神の教会へ。**」と言った後に「**すなわち、**」と続けます。ですから、今説明したことを彼はより詳細に説明していきましょうとします。「神の教会」についてより詳しい説明をしています。「**私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。**」と、皆さんに注目していただきたいのは、「**聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。**」ということばです。明らかに、教会は建物ではないことが分かります。クリスチャンたちを指しています。そして、パウロはクリスチャンとはこのような人であると言います。すでに、クリスチャンとは神に属する者であると見ました。二つ目のポイントはクリスチャンとは「神によって聖められた者」であるということです。ここに「**聖徒**」ということばが出て来ました。また、「**聖なるものとされた方々**」ということばもあります。これはクリスチャンたち、聖められた者たちを説明しています。これらはどちらも同じ語根です。ルーツを辿ると同じことばなのです。「**聖い、聖い人々**」という意味です。それぞれをしっかりと見ていきます。

### ◎クリスチャンとは？

#### 1) 神のために聖別された人

・「**聖徒**」：パウロはここでクリスチャンたちは「**聖徒**」だと言います。イエスによって救われたあなたは**聖徒**だと言います。ぜひ、覚えておいてください。「**聖徒**」とは、神により神のために聖別された人のことです。先ほども見たように、神があなたを救ってくださり、あなたを聖めてくださったことには目的があるのです。あなたの罪を赦すことによって、聖められたあなたを聖い神は用いようとしておられるのです。この「**聖徒**」ということばは、ギリシャ語の「**ハギオス**」という形容詞から訳されたことばです。その「**ハギオス**」ということばに関してバークレーはこのような説明をしています。「**ハギオス**ということばは、神を所有し神に奉仕することを唯一の目的とする物、もしくは人を指すときに用いられる。だが、この語の根源的な意味は分離ということである。ユダヤ人が自分たちの特性をあらわすために使ったのがこの形容詞である。彼らはハギオス・ラオス、聖なる民、つまり、特に神に属し、神への奉仕のために立てられたのだから、他の民族とは違った、分離せられた国民である、という自覚をもっていた。パウロはキリスト者をハギオスと呼ぶとき、キリスト者は特に神に属し、神への奉仕のために生きるものなのだから、他の人々とは違った人間である、ということを行わんとしているのだ。そして、その違いは世間並みの生活や活動から退くことによって示されるのではなく、平凡な生活の中にありながら、普通の人とは違った、神の人らしい生活や品性を表わす、という形で示されるのである」(バークレー)。

私たちはこの世の人々とは違うのです。ユダヤ人たちは「民族的に違う」と言いました。しかし、パウロが私たちクリスチャンたちにこのことばを使うときに彼が言いたかったことは、この主イエス・キリストの救いを信じていない人と、私たち救いに与った者たちとは違うということです。神の人らしい生活や品性を表わすことによって、そうでない人たちとの区別が明確になるのです。「聖徒」とは見て来ているように、神によって神のために聖別されたのです。他のものと区別された、他のものと分けられたのです。かつて、私たちは罪の中にいました。けれども、そこから分けられたのです。神のすばらしさをこの世にあって証するためです。ですから、神はクリスチャンであるあなたは聖徒だと教えてくださるのです。神は罪の中からあなたを選んでくださり、あなたを神を知らない人たちと明らかに区別してくださり、あなたの日々の生活を通してあなたの人格や性格やあなたのすべてを通して、あなたのうちにいる神こそが真の神であることを世に明らかにするために、あなたにそのようなわざをされたのです。だから、あなたは「聖徒」なのです。このように聞くと、私たち信仰者には大変な責任があるということ、神は大変な思いを私たちに対してもっておられるということに気がきます。あなたは「聖徒」として召されたのです。あなたは神がそのように救いへと招いてくださったのです。

## 2) 神によって罪が聖められた人

パウロがここで言うことは、あなたは救いによって罪を犯さない人になったということではありません。そんな人はどこにもいません。私たちはこの地上にいてクリスチャンとして日々の生活において罪との葛藤を経験しています。敗北に次ぐ敗北です。でも、罪に敗北するときに、それを神の前に告白して赦していただいて、また、神に従って行こうとします。そのようにして私たちは生きるのです。ですから、ここで言われていることは、「クリスチャンであるあなたは主から完全な罪の赦しをいただいた人だ」ということです。あなたの罪は完全に赦されたと言っているのです。1コリント6：11にこのように記されています。「あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。...」、どのような者か？その前9－10節に書かれています。「**不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしめる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。**」と。このような人たちは救いに与ることはないと言った後、「**しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。**」、ここにすべてのことが書かれています。神はあなたに何をしてくれたのか？あなたのすべての罪を洗ってくれたのです。どろどろのからだを水で洗うように、罪のからだを神は洗ってくださったのです。

そして、あなたは聖い聖なる者と変えられたのです。神が確かに、罪との葛藤を経験し罪に敗北するあなたを見て「あなたは聖い」と言われるのです。だから、「**義と認められた**」と書かれています。これが神が私たちに与えくださった救いです。今、私たちが神の前にいつでも大胆に立つことができるのは神の赦しをいただいたからです。神が罪を洗ってくださって、神が私たちを義なるものとしてくださったからです。パウロはこの罪の赦しはイエス・キリストによってのみ与えられるものであると教えています。2節に「**キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。**」とあります。これ以外の方法はないのです。あなたの罪が聖められて、あなたが神の前に義なるものとされるために、その方法は唯一「**キリスト・イエスにあって**」です。イエスだけがあなたを罪から聖めてくださり、イエスだけがあなたを義なるものとしてくださるのです。

パウロはエペソ人への手紙1：7でこのように言います。「**この方によって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。**」と、イエス・キリストの死によって罪の贖いを受けているのです。なぜなら、主イエスだけが私たちの身代わりとして十字架で私たちの罪の精算をしてくださったお方だからです。イエスだけが私たちひとり一人のすべての罪を負って、私た

ちの代わりとなって、私たちが支払うべき罪の代価を代わりに払ってくださった、罪の精算をご自分のいのちをもってしてくださったのです。ヘブル書10：10に「このみこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけさげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。」とあります。イエス・キリストの十字架によって、その十字架を信じるひとり一人の罪が赦され、聖なるものとされると言います。

あなたは「聖徒」である、「キリスト・イエスにあって聖なるものとされた」と、これがあなただとパウロは教えてくれるのです。だから、信仰者の皆さん、私たちは罪赦されたことを喜ぶことです。罪との闘いは栄光のからだをいただくときまで続きます。しかし、もう私たちは罪によって永遠のさばきに至ることはないのです。主によって赦されたのですから、聖められたのですから、義なるものとされたのですから。少なくとも、私たちはそのことを喜びながら、そのことを感謝しながら生きていくのです。それが私たちクリスチャンの歩みです。

もう一度、2節に戻ってください。確かに、パウロは「聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。」と記しているのですが、その前に「私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、」とあります。パウロはなぜこのことをここに記したのでしょうか？ここには大切な意味があるのです。「呼び求めている」とは「救い」のことです。「ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。」（ローマ10：12）、10：13「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。」。ということは、この2節に「至る所で呼び求めているすべての人々とともに、」とあるように、パウロは「聖徒とされたのはあなたたちだけではない、聖められたのはあなたたちだけではない、その人たちはたくさんいる」と言うのです。「至る所で」と言います。なぜ、こんなことを言ったのでしょうか？それは私たちはお互いに責任をもっていうことです。悲しいことに、私たちはいろいろなスキャンダルを聞いたりします。たとえば、それが教会の中であつたらどうでしょう？私たちは自分たちの教会だけでなく、周りの多くのクリスチャンたちを傷つけることになります。ですから、私たちひとり一人は自分たちの群れだけでなく、周りのクリスチャンたちに対しても大きな責任を負っているのです。私たちクリスチャンはそのような存在だということです。自分さえよければいいというではありません。あなたも聖徒とされ、あなたも聖めに与っている、そのような人たちはあなたの周りにたくさんいるのであって、みな同じ責任を負っているのです。今見て来たように、聖徒である以上、私たちは神によって選ばれた者であり、神によって用いられる者であるゆえに、そのように生きていく責任があるし、そのようにみな生きていくなら、私たちは個人を通して、群れを通して、また、地域を通してもっとキリストを証することになるかもしれません。

でも、もし、私たちがそうでなければ、それとは違う結果がそこにもたらされることがあります。ですから、パウロはここで「あなたたちの歩みはあなたたちだけでなく、周りの人たちに大きな責任がある」と言うのです。先に言ったように、コリントの教会は大変な問題を抱えていたのです。「コリントの教会のように...」ということばは世俗的になることを意味しました。悪評が広がっていたのです。ですから、パウロは「あなたたちがどのように生きるのかは、あなたたちだけの問題ではない。周りの人たちに対しても大きな責任がある。」と言うのです。私たちもそうです。私たちはそれぞれの家庭、地域に送られているのです。私たちはどのような証をするのかです。私たちは聖徒です。キリストによって選び分けられたものです。キリストによって罪が赦され義なるものとされたものです。それにふさわしく生きなさい。私たちはこの世から分離されたのです。そうして生きるのがクリスチャンであり、それが主である神が望んでおられることです。

私たちは「神に属するものだ」とパウロは言いました。そして、私たちは「神によって聖められたものだ」、それがクリスチャンだと見て来ました。

### 3. 神から恵みと平安をいただいた者 3節

3節「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」と、これは典型的なあいさつです。イスラエルで「シャローム」と言うように…。このようなあいさつをする場合、たとえば、「あなたの上に祝福がありますように、シャローム」と言ったときに、それは何となく言っているのではありません。そのことを願っています。パウロがここでこのようなあいさつをしたのは、パウロがこの通りのことをコリントの教会に願っていたからです。それはコリントの教会に「恵みと平安がなかった」という意味ではありません。彼らは「恵みと平安」をいただいていたのです。問題はその恵みと平安において成長していたかどうかです。ですから、クリスチャンに神が与えてくださった三つ目の祝福は「神から恵みと平安をいただいた」ことです。

クリスチャンであるあなたは神からすばらしい恵みと、神のすばらしい平安をいただいたのです。例外なく与えられています。思い出してください。パウロは神の前に「とげを取り除いてください」と祈りました。3回祈りました。そのときに神は「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。」(IIコリント12:9)。つまり、クリスチャンとしてどのような状況にあっても、神を喜ばせる歩みを実践するための力は備えられていると

いうことです。パウロは、このとげが取り除かれたなら、つまり、病気が良くなったら神に仕えることができると思いました。神は「いいえ、たとえ、病気であってもその中で神に仕えることができる。なぜなら、わたしの恵みはあなたに十分であるから。」と言われたのです。

ということは、確かに、私たちはみことばを見るとそこに神の命令があふれています。「こうしなさい、このように生きていきなさい」と…。多くの人たちが実際にしていることですが、もしも「私には無理です。」と言うなら、それは神のみことばに逆らう思いをいただいたことになります。神があなたに命令をお与えになった。不安になるかもしれない。でも、神は「わたしの恵みはあなたに十分である。」と言われます。つまり、その命令をあなたが実践するために必要なものは全部十分にあなたに与えていると言われたのです。だから、神の命令を聞くときに私たちはそれを重荷には感じないのです。却って私たちは、神はそのように望んでおられ、そのように私たちは歩いていくことができると知ったときに、期待が湧いてきませんか？神の命令に従うための力は神によって備えられている、それを「恵み」と言ったのです。「わたしの恵みは、あなたに十分である。」、あなたはわたしに従うことができると言われるのです。問題はその恵みによって成長しているかどうかです。神が言われたこと、神のみこと

ばを信じて神の助けをいただきながら、それを実践しているかどうか？です。多くの人たちは「私には無理だ！」と言って何もしていないかもしれません。だから、成長していないのです。パウロはこのコリント教会のクリスチャンたちが恵みにあって成長することを望みました。

そして、同時に「平安にあって」と言います。私たち信仰者はイエス・キリストの平安をいただきました。主イエス・キリストはこのように言われました。ヨハネ14:27「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」、イエスがもっておられた平安を私たちはいただいたのです。その平安をもって生きているかどうかです。皆さんの心にはいつも不安がいっぱい、心配事が心を満たしていませんか？思い出してください。神がくださったのはイエス

がもっておられた平安なのです。ヨハネ 16 : 33 「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」、主はあなたが平安をもって、どんなときでも心安らかに、喜びをもって感謝をもって生きることを望んでおられます。そのために神はあなたに神ご自身の平安をくださったのです。だから、私たち信仰者はそのように生きていくことができるのです。

問題はどのように生きているかどうか？です。何が問題なのでしょう？罪です。罪があなたから喜びを奪うのです。罪があなたの中から平安を奪って、あなたの心の中にいろいろな不安を植え付けていくのです。主の前に心を注ぎ出して、主に心を探っていただいて、罪を主の前に告白して、主の約束を信じて歩む、そのような信仰者として歩む、また、信仰者だけがができる歩みを始めていくことです

主はあなたに平安をくださった。主はあなたに十分な恵みをくださったのです。パウロはコリント教会のクリスチャンたちが恵みと平安において成長することを望みました。ということは、「恵みと平安においてあなたも成長できる」のです。しっかりと主を見上げることです。主が与えてくださった祝福を覚えることです。主ご自身がどんな方であるのかを覚えることです。そして、この主の約束に立って生きていくことです。信仰者の皆さん、今、私たちが見て来たような人に神はあなたを変えていってくださいます。いつも、私たちが見るように、そのためには私たちは第一歩を踏み出さなければなりません。そこにずっと立ち止まったり、そこに座り込んでしまっては前に進めません。「主よ、私はそんな人に変えられたい」と前に出て行くのです。信仰の歩みです。主を信頼した歩みです。そして、主に働いていただけてください。主はあなたを変えていってください。そのためにも、私たち信仰者はしっかりとこんな祝福をいただいた、私は神に属するもの、私は神によって聖められたもの、どんなに罪が責めても私は義なるものとされ罪の問題は解決した、そして、私には神の恵みと平安が与えられている、主よ、もっとこの恵みと平安にあって成長したいと、この祈りをもって歩むことです。

これがクリスチャンです。パウロはそのように私たちに教えてくれます。どうぞ、クリスチャンとして歩んでください。クリスチャンらしく、その歩みを通して、このような祝福をくださった神があなたを通して明確に示され、この方が誉め称えられるように。

#### 《考えましょう》

1. 「神の教会」を説明してください。
2. 「ハギオス」というギリシャ語の意味を書いてください。「聖徒」、「聖なる者」であるクリスチャンに、神は何を期待しておられるのでしょうか？
3. どうして、主イエスだけが救いを与えることができるのでしょうか？
4. 「恵み」と「平安」において成長するには、どうすれば良いのでしょうか？